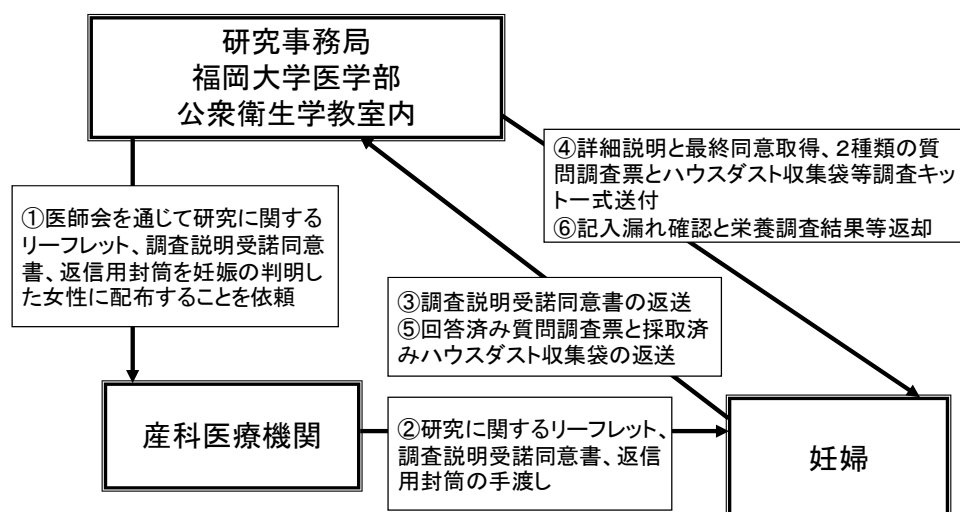


## 5. 研究内容および研究成果の概要

平成 19 年度より、出生前開始前向きコホート研究である「九州・沖縄母子保健研究」を開始した。本コホート研究は、アレルギー性疾患をはじめ、母親の歯周病、子供の齲蝕、産後うつ病等、母子に関わる健康問題のリスク要因及び予防要因の解明を目的とする多目的コホート研究である。平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月までの間に、九州全県及び沖縄県の協力産科医療機関（福岡県：131 医療機関、沖縄県：40 医療機関、宮崎県：48 医療機関、大分県：39 医療機関、長崎県：58 医療機関、熊本県：61 医療機関、鹿児島県：17 医療機関、佐賀県：25 医療機関）を受診した妊娠 32 週未満の妊婦に、本研究に関するリーフレット、調査説明受諾同意書、返信用封筒の一式を手渡していただいた。ベースライン調査運営概念図については、下図に示す。

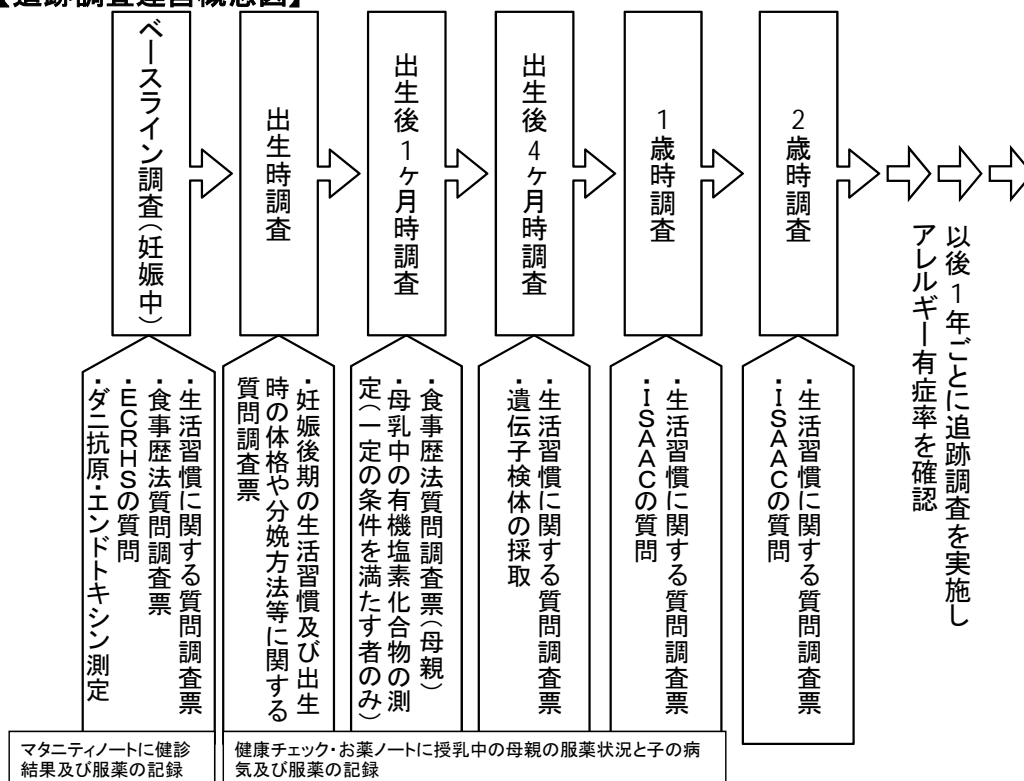
### 【ベースライン調査運営概念図】



本研究に関する詳細な説明を受けたい妊婦は、調査説明受諾同意書に氏名、連絡先を記入して研究事務局（福岡大学医学部公衆衛生学内）に返送した。研究事務局は電話で妊婦に研究の詳細説明を行い、最終的な同意を得た後、研究対象者とし、自記式食事歴法質問調査票及び本研究用に開発した生活習慣・生活環境に関する質問調査票からなる調査キット一式を自宅へ郵送した。対象者は回答済み質問調査票を研究事務局へ返送した。研究事務局は記入漏れの確認をした後、栄養調査結果を対象者に返却した。最終的に、1758 名の参加を得た。追跡調査は、出生直後、出生後 4 ヶ月時、1 歳時、2 歳時、以後毎年実施し、母親と生まれた子供の生活習慣・生活環境の情報を得る。追跡調査の運営概念図

を下図に示す。

【追跡調査運営概念図】

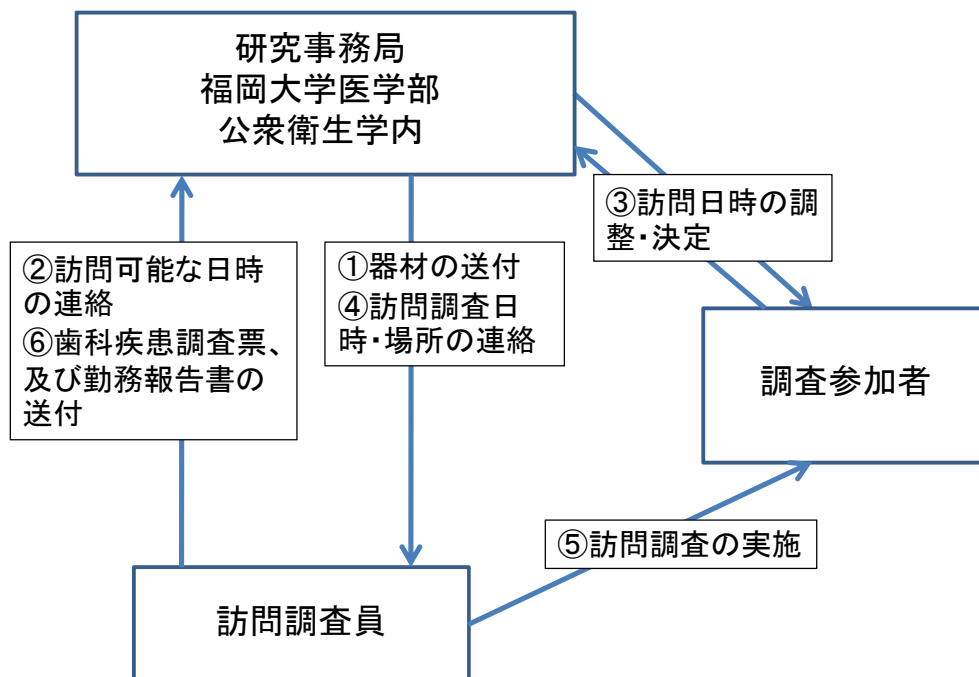


出生時調査は、平成 19～20 年度にかけて実施した。質問調査票により、妊娠後期の生活習慣や生活環境、出生時の子供の体格（身長、体重、胸囲、頭囲）や分娩時の状況（自然分娩、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開）等の情報を得た。最終的に、1541 組の母子の参加協力を得た（追跡率：87.7%）。

4 ヶ月時追跡調査は、平成 19～21 年度にかけて実施した。4 ヶ月時調査では、出生後 4 ヶ月を迎える直前に質問調査票を自宅へ郵送した。この 4 ヶ月時追跡調査の質問調査票では、母乳摂取状況、家庭内喫煙状況、保育園利用状況、使用している寝具や入浴等の生活環境・生活習慣に関する情報、母親の食事制限、産後うつ病等に関する情報を得た。母親は質問調査票に記入後、福岡大学に設置している研究事務局に返送した。事務局担当者は記入漏れ等をチェックし、参加者に電話、ファックス等で確認をした。同時に、事務局担当者より対象者へ、歯科衛生士による口腔内観察の依頼をした。事務局担当者が、訪問歯科衛生士と対象者との日時を調整したうえで、歯科衛生士は調査参加者を個別に訪問し、母親の口腔内を観察した。口腔内観察の項目は、歯牙の状況（処置歯、未処置歯、喪失歯）の確認及び、代表歯 6 本（上下顎前歯部 2 本、上下顎臼歯

部 4 本) の歯周ポケット測定、歯肉出血の有無、歯石の有無の確認とした。訪問調査運営の概念図を下図に示す。

### 【訪問調査運営概念図】



訪問調査に先立ち、衛生士間の手技の統一をはかり、一定の条件のもと口腔内観察を実施できるようにするために、訪問歯科衛生士にマニュアルを配布した。さらに必要に応じて、直接もしくは電話にて詳細に説明を実施した。訪問歯科衛生士の確保にあたっては、各県の歯科衛生士会を通じて調査協力の依頼をした。4ヶ月時追跡調査には1482組の母子の参加協力を得た(追跡率:84.3%)。このうち、歯科衛生士による口腔内観察の同意を得られたのは1180名であった。口腔内観察に協力いただいた対象者には、齲蝕と歯周病に関する結果を返却した。

歯科衛生士の自宅訪問は平成21年3月末をもって終了した。すべての口腔内観察のデータが事務局に到着した後、事務局担当者によりデータチェックを実施した。その後、データ入力会社にデータ入力を依頼した。入力データの納品後、事務局担当者が、再度、入力されたデータの確認作業をし、母親の口腔内観察のデータベースを構築した。